

平成30年度 事業報告書

2018年4月1日より2019年3月31日まで

第1 公益目的事業

定款第4条に掲げる事業は、次の計画により行った。

公1 がんに関する学術研究集会の定期開催、ならびに海外学術調査研究事業

① 国際がんシンポジウム事業(第37回)

2018年7月17日～19日の3日間、国内外から21名の研究者を招き、ロイトン札幌にて国際がんシンポジウムを開催した。テーマは「Deciphering the complexity of cancer microenvironment(がん微小環境の複雑性解明を目指して)」、代表世話人は東京大学大学院医学系研究科微生物学分野教授 畠山昌則氏で、約118名の参加者を得て盛會理に終了した。

② 冬季がんセミナー事業(第33回)

2019年1月26日～27日の2日間、道内外から10名のがん研究者を招き、ロイトン札幌にて臨床を中心としたがんセミナーを開催した。テーマは「いまがんを考える 2019ーがんを取り巻く新しい取り組みー」、代表世話人は北海道大学大学院医学研究院消化器外科教室 I 教授 武富紹信氏で、約400名の参加者を得て盛會理に終了した(大鵬薬品工業(株)との共催)。

③ 市民とつくる春のがんセミナー事業

2019年3月23日(土)、30日(土)の2日間にわたり、市民対象の市民とつくる春のがんセミナーを北海道医師会との共催で開催し、156名の参加者があった。

④ 四季講演会事業

以下のうち①と②の2回の講演会を行い、それぞれ有意義な講演とその後の討論を行った。9月7日に予定していた講演会は胆振東部地震のため中止した。

①7月21日(土)

テーマ：中国医学の現状と未来

講師：巴徳年氏(中国医学科学院顧問)

参加者：約20名

②8月23日(木)

テーマ：なぜ滋賀県の平均寿命、健康寿命は延伸したのか

講師：角野文彦氏(滋賀県健康医療福祉部理事)

参加者：約100名

③9月7日(金) 胆振東部地震のため中止

テーマ：がん治療最前線

講師：佐治重豊氏(岐阜大学名誉教授)

⑤ 海外における調査研究事業

海外との情報交流等を行った。

公2 がん予防・啓発、ならびにがん相談事業

⑥ がん啓発・予防事業

小学生を対象にした健康教育のDVDを完成させた。その他、市民団体へ激励金を渡し当財団でカバー出来ない分野の活動の支援を行った。また、がん患者及び家族への相談を事務局にて行った。

⑦ 広報関連事業

会報を年2回作成し、関係機関へ配布した。その他、ホームページの更新などを行い、財団活動を広く周知した。

公3 医学・医療・福祉など関係の学会研究の助成事業

⑧ 学会助成事業

第28回がん登録協議会(会長:高橋将人氏)への助成を行った。